＜産業保健疫学領域について＞

指導教員 :中谷　淳子 、盧　渓

産業保健疫学は、職場における健康状況とそれに関連する要因の分布を明らかにし、働く人々の疾病発生の予防、寿命の延長、生活の質の向上を目指す学問である。「特論」では、働く人々の心身の健康の維持増進を図るための科学的アプローチを教育する。また産業保健疫学的研究の歴史的展開と今後の課題を展望し、「労働と健康の調和を図る」ことの本質を理解させる。「演習」では、国内外の産業保健疫学の動向を把握し、職場環境改善に有効な方法論の検討を行う。最新の疫学的・生物統計学を学びながら課題の明確化や分析、解決アプローチ法を具体的に考案できるように構成する。「実習」では、産業保健現場で考えられる最善のアプローチを考慮しながらフィールドワークを行う。疫学研究を行う際に必要な研究手法や研究倫理などにも配慮した指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方について学ぶ。「論文指導」では、研究課題を明確にし、専門的な研究を行うための文献調査の方法、データの収集方法、統計解析、研究倫理などについて指導する。その上で国内外の専門誌や学会で研究発表を行い、また実践での場面で役に立つ人材の育成を行う。指導に当たっては、主体性をもって自分の発想やオリジナリティーを重視する。

＜産業衛生学専攻博士前期課程への入学を希望される方へ＞

１．研究テーマについて

産業保健疫学領域では、以下の研究テーマを想定しています。

産業・地域看護学（中谷　淳子教授、盧　渓教授）が中心となって指導する研究

- 中小規模事業場における産業保健/看護活動のあり方についての量的・質的研究
- 産業看護活動の質向上（産業看護職の教育を含む）をテーマとした量的・質的研究
- 労働・産業活動が健康指標に与える影響を検討する疫学研究（量的研究・二次解析）

２．受け入れ要件の目安

一般入学者および週１日程度の対面指導が可能な社会人入学者については、受け入れ要件はありません。

一方、主にリモートでの指導を前提とした社会人入学を希望される場合、２年間の修学期間で必要な成果を確実に上げるために、以下を受け入れの目安としています。

以下の項目のうち、２つ以上の項目を満たすこと

- 想定される研究を行うことができるフィールドを確保できている。
- 想定される疫学的分析手法を理解している、あるいは自己学修意欲が高い。
- 何らかの学術論文を執筆、あるいは学会発表をした経験がある。

問い合わせ先：産業・地域看護学 代表メールアドレス

j-3kango@mbox.health.uoeh-u.ac.jp